登米圏域宿泊事業者部会でのご意見（抜粋）

資料3

R8.10.1　第2回登米圏域宿泊事業者部会

（1）二次交通について

◎夜飲みに行った宿泊客が帰りにタクシーや代行を呼べず、飲食店の人に送ってもらうことが多々ある。

現状、飲食店の負担が大きいため、少しでもお店の人がお金を受け取れる仕組みがあると良い。

◎タクシー会社等にも相談し、ライドシェアについて話を前に進めてほしい。可能であれば、ホテル従業員がライドシェアの運転手になって送迎するという手もある。宿泊客としてはタクシーがないのがとても不便。

◎タクシーや代行がどんどん減っていく中で、小さい規模での移動手段が求められている。

◎顧客満足度を上げないとリピートに繋がらない。交通手段を増やさないと客足の底上げが図れない。

登米市では病院へのバス対策はしているが、観光も同じように対策（特に小回りが利くもの）を進めてほしい。

（2）観光コンテンツの磨き上げについて

◎森舞台や伊豆沼のマガン飛び立ちなど、神社に限らず多様な地域資源を「パワースポット」として発信・売り出すべき。

◎仙台より歴史がある「登米のお茶会」など、認知度の高い文化資源の魅力を再掘り起こし・アピールしていくとよい。

◎「農業体験＋ホテル宿泊」や「農業体験＋ホテルでの登米市産仙台牛ランチ」など、日帰りも含めた事業者間連携で魅力を高める工夫が必要である。

◎大規模な教育旅行だけでなく大学の合宿など、地域規模に合わせたターゲットの精査・絞り込みが重要である。

◎魅力的なエリアの推進には、ターゲット設定や役割分担をまとめるコーディネーターの存在が不可欠であり、その育成視点も持つべき。